

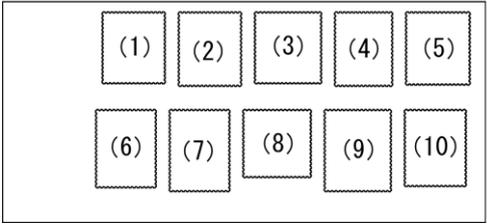
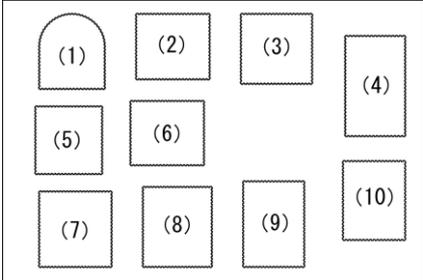
2022年6月1日
日本郵便株式会社

特殊切手「美術の世界シリーズ 第4集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 衣川 和秀）は、魅力ある名作絵画などの美術品を題材として特殊切手「美術の世界シリーズ 第4集」を発行します。

第4集は「黄色・黄金の世界」がテーマです。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	美術の世界シリーズ 第4集	
発 行 日	2022年8月3日（水）	
種 類	63円郵便切手（シール式）	84円郵便切手（シール式）
切 手 画 像	別紙のとおり	
シ ー ト 構 成 ・ 意 匠	 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「色絵牡丹文平鉢 古九谷」(部分) (2) 「浜松図屏風」(部分) (3) 「佳器」小倉遊亀 (4) 「向日葵図」(部分) 鈴木其一 (5) 「春日山蒔絵硯箱」(部分) (6) 「龍虎図屏風」(左隻部分) 橋本雅邦 (7) 「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」(部分) 葛飾北斎 (8) 「エトルタの朝」クロード・モネ (9) 「オイゲニア・プリマフェージュの肖像」グスタフ・クリムト (10) 「ひまわり」(部分) フィンセント・ファン・ゴッホ 	 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「色絵牡丹文平鉢 古九谷」 (2) 「浜松図屏風」(部分) (3) 「径」小倉遊亀 (4) 「向日葵図」鈴木其一 (5) 「龍虎図屏風」(左隻部分) 橋本雅邦 (6) 「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」葛飾北斎 (7) 「ひまわり」フィンセント・ファン・ゴッホ (8) 「人生は戦いなり (黄金の騎士)」グスタフ・クリムト (9) 「黄色いアイリス」クロード・モネ (10) 「春日山蒔絵硯箱」
所 蔵 元	<ol style="list-style-type: none"> (1) 石川県立美術館 (2) 東京国立博物館 (3) 滋賀県立美術館 (4) 畠山記念館 (5) 根津美術館 (6) 静嘉堂文庫美術館 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 石川県立美術館 (2) 東京国立博物館 (3) 東京藝術大学 (4) 畠山記念館 (5) 静嘉堂文庫美術館 (6) すみだ北斎美術館

	(7) すみだ北斎美術館 (8) アサヒビール大山崎山荘美術館 (9) 豊田市美術館 (10) SOMPO美術館	(7) SOMPO美術館 (8) 愛知県美術館 (9) 国立西洋美術館 (10) 根津美術館
売 価	630 円 (シート単位で販売します。)	840 円 (シート単位で販売します。)
小 切 寸 法	(1) 縦28.0mm×横24.5mm (2) 縦29.0mm×横24.5mm (3) 縦28.0mm×横26.0mm (4) 縦29.0mm×横22.5mm (5) 縦28.5mm×横25.0mm (6) 縦30.5mm×横23.5mm (7) 縦32.0mm×横23.5mm (8) 縦26.5mm×横26.5mm (9) 縦32.0mm×横26.0mm (10) 縦30.0mm×横24.0mm	(1) 縦33.8mm×横29.5mm (2) 縦29.5mm×横33.0mm (3) 縦31.5mm×横32.0mm (4) 縦45.0mm×横27.0mm (5) 縦30.5mm×横30.0mm (6) 縦29.0mm×横33.0mm (7) 縦34.0mm×横32.5mm (8) 縦36.0mm×横31.0mm (9) 縦38.5mm×横27.5mm (10) 縦35.5mm×横28.0mm
印 面 寸 法	(1) 縦25.0mm×横21.5mm (2) 縦26.0mm×横21.5mm (3) 縦25.0mm×横23.0mm (4) 縦26.0mm×横19.5mm (5) 縦25.5mm×横22.0mm (6) 縦27.5mm×横20.5mm (7) 縦29.0mm×横20.5mm (8) 縦23.5mm×横23.5mm (9) 縦29.0mm×横23.0mm (10) 縦27.0mm×横21.0mm	(1) 縦30.5mm×横26.5mm (2) 縦26.5mm×横30.0mm (3) 縦28.5mm×横29.0mm (4) 縦42.0mm×横24.0mm (5) 縦27.5mm×横27.0mm (6) 縦26.0mm×横30.0mm (7) 縦31.0mm×横29.5mm (8) 縦33.0mm×横28.0mm (9) 縦35.5mm×横24.5mm (10) 縦32.5mm×横25.0mm
シ ー ト 寸 法	縦 86.0mm × 横 187.0mm	縦 127.0mm × 横 187.0mm
助 言 ・ 監 修	高岸 輝 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)	
切 手 デ ザ イ ン	楠田 祐士 (切手デザイナー)	
版 式 刷 色	オフセット6色	
発 行 枚 数	800 万枚 (80 万シート)	2,000 万枚 (200 万シート)
販 売 場 所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の郵便局など ^(注1) ・ 「郵便局のネットショップ」 ^(注2) ・ 銀座郵便局での郵便振替による通信販売 	

2 発行する郵便切手のデザインについて

美術の世界シリーズの第四弾は、「黄色・黄金の世界」です。黄色はヒマワリの花弁に代表される明るく温かな色彩に特徴があり、黄金は不変の輝きをもつ素材として絵画や工芸品にしばしば用いられます。これらの色彩は黒、青、緑といった濃い色に並置されると、明快な対比によってその美しさが際立ちます。西洋絵画で背景に用いられた黄色、日本の屏風に多用される黄金の金箔や金泥は、いずれも光あふれる空間を表現しています。今回は、室町時代から現代に至る日本の絵画・工芸と、近代のヨーロッパ絵画の中から、黄色・黄金が印象的な作例を取り上げました。

<63 円シート>

(1) 「色絵牡丹文平鉢 古九谷」 石川県立美術館蔵

古九谷は、江戸時代の前期、17 世紀後半をピークとして数多く生産された色絵の磁器。磁器特有の白色の地の上に三輪の牡丹を描いており、紫色・緑色の枝葉を背景に、黄色で表現された大輪の花がひとときわ鮮明です。皿の周縁や葉の一部にも黄色が効いています。

(2) 「浜松図屏風」 東京国立博物館蔵 (Image: TNM Image Archives)

室町時代には、白砂青松の浜辺の様子を描いた屏風が大量に制作されました。本作もその一つで、黄金の雲に包まれた空間の中に、春夏秋冬の花鳥や海浜の風俗が展開します。大きな柳の木は春の光景を示し、その周りを色とりどりの小鳥たちが飛びます。金色は、あたかも浄土のような空間を演出する決め手となっています。

(3) 「佳器」小倉遊亀 滋賀県立美術館蔵

小倉遊亀 (1895~2000) は滋賀県に生まれ安田鞞彦^{やすだゆきひこ}に師事し、日本美術院に所属する日本画家として活躍しました。濃い赤色のテーブルで画面を幾何学的に分割し、奥に置かれた古九谷の鉢の文様では黄色が効いています。これと呼応するように、手前には柑橘類が配され、黄色系の微妙な色相の差異と陰影の濃淡が画面全体の中で確かな存在感を示します。

(4) 「向日葵図」鈴木其一 畠山記念館蔵

鈴木其一 (1796~1858) は江戸時代の後期に江戸の地で活躍した絵師。酒井抱一^{さかいほういつ}に師事して琳派^{りんぱ}の流れを継承し、明快な構図と鮮麗な彩色による装飾的表現に特徴があります。向日葵^{ひまわり}の茎や葉はにじませた絵の具で中間色を示すのに対し、正面や横から描かれた花の黄色は、まばゆいばかりに明るいです。

(5) 「春日山蒔絵硯箱」 根津美術館蔵

室町時代に制作された硯箱で、第八代将軍・足利義政が愛用したと伝えられます。蓋の表には銀の満月とともに、鹿・薄^{すすき}・桔梗^{ききょう}など秋の風物と文字を配し、『古今和歌集』壬生忠岑^{みぶのただみね}の「山里は秋こそことにわびしけれ しかのなくねにめをさましつつ」の歌を表しています。月明かりに照らされて、山や動植物が金色に浮かび上がるかのようです。

(6) 「龍虎図屏風」橋本雅邦 静嘉堂文庫美術館蔵 (画像提供: 静嘉堂文庫美術館 / DNPpartcom)

橋本雅邦 (1835~1908) は幕末から明治時代に活躍した日本画家。狩野派の流れをくみ、東京美術学校 (現在の東京藝術大学) の開校に当たって教授を務めました。「龍虎図屏風」は、狩野派の伝統的な主題や技法に西洋風の新しい構図や空間感覚を取り入れた代表作です。虎の毛の黄色と背景の黄金が調和した画面に特徴があります。

(7) 「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」葛飾北斎 すみだ北斎美術館蔵

(画像提供: すみだ北斎美術館 / DNPpartcom)

葛飾北斎 (1760~1849) は、江戸時代後期に活躍した浮世絵師。「諸国名橋奇覧」は、「富嶽三十六景」の後に出版されたもので、全国各地にあった橋や既になくなった橋など、特徴ある構造を示すものを

取り上げています。本図は、飛騨国と越中国または越前国との国境にあったつり橋をモチーフにしたもので、淡い黄色系の色で彩色された橋や崖が、背景の空や山岳の青色と美しい対比を見せています。

(8) 「エトルタの朝」 クロード・モネ アサヒビール大山崎山荘美術館蔵

モネ（1840～1926）はフランスで活躍した印象派の画家。エトルタは、フランス北部のノルマンディー地方の海岸で、石灰層の白色の断崖で知られます。モネは 1880 年代にここをしばしば訪れ、季節や時刻によって刻々と変化する海辺の光を描き留めました。断崖に反射するまぶしい朝日の光を的確に捉えています。

(9) 「オイゲニア・プリマフェージュの肖像」 グスタフ・クリムト 豊田市美術館蔵

クリムト（1862～1918）は、オーストリアのウィーンを舞台に活躍した画家。装飾的かつ象徴的な絵に特徴があります。晩年の 1913～1914 年に描かれたこの肖像は、彼のパトロンであった銀行家の妻をモデルとしたものです。モデルは複雑な配色の衣装をまとい、輝くような黄色の背景がこれを浮かび上がらせる効果を発揮しています。

(10) 「ひまわり」 フィンセント・ファン・ゴッホ SOMPO美術館

ゴッホ（1853～90）はオランダ生まれ、晩年をフランスで送った画家。鮮烈な彩色を用い、筆触を活かした表現の特徴があります。「ひまわり」は静物画の代表作の一つ。レモンイエローを背景に、黄色の壺と向日葵の花を配することで、微妙な色相や明暗の差を描き分け、画面全体を明るい生命感で満たしている点に特徴があります。

<84 円シート>

(3) 「径」 小倉遊亀 東京藝術大学蔵

母と子と飼い犬が仲良く並んで歩く、夏の日の様子を描いた一枚。大中小の身長が三角形の構図を示し、三者の脚がリズムカルな動きを示します。明るい画面の中で、女兒の持つ傘の黄色がひとときわ鮮やかなアクセントとなっています。

(8) 「人生は戦いなり（黄金の騎士）」 グスタフ・クリムト 愛知県美術館蔵

深い緑色を背景に、黄金の甲冑に身を固めて黒馬にまたがる騎士は、わき目もふらずに前進する孤高の存在として描かれています。1903 年に発表された本作は、自らの作品に対して非難を受けたクリムトがその心境を投影したものといわれます。黄金のもつ象徴性を最大限に発揮した作例です。

(9) 「黄色いアイリス」 クロード・モネ 国立西洋美術館 (Photo: NMWA / DNPartcom)

モネは後半生、パリ郊外のジヴェルニーにアトリエ兼住居を構え、睡蓮の浮かぶ池を配した庭園を営み、植物と水面に降り注ぐ光を観察しながら多くの作品を描きました。本作もその一つで、緑や青に塗られた葉の上に、明るい黄色の花弁が明瞭に描き出され、穏やかな風になびくような形態によって庭園全体を包む空気の存在を暗示しているようです。

※ (1)、(2)、(4) ～ (7) および (10) については、63 円シートと同じです。

3 美術作品の所蔵元について

各美術作品の所蔵元の情報は次のとおりです（切手に関する照会は所蔵元ではなく、弊社お問い合わせ先までお願いします。）。

なお、作品は常に展示されているとは限りません。

<63円シート>

(1) 石川県立美術館

住所：〒920-0963 石川県金沢市出羽町 2-1

HP : <https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

(2) 東京国立博物館

住所：〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9

HP : <https://www.tnm.jp/>

(3) 滋賀県立美術館

住所：〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1

HP : <https://www.shigamuseum.jp/>

(4) 畠山記念館

住所：〒108-0071 東京都港区白金台 2-20-12

施設改築工事により休館中のため、以下の住所にて業務を行っております。

〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-1-22 サテライトEビル7階

HP : <https://www.ebara.co.jp/foundation/hatakeyama/index.html>

(5) 根津美術館

住所：〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

HP : <http://www.nezu-muse.or.jp/>

(6) 静嘉堂文庫美術館

住所：〒157-0076 東京都世田谷区岡本 2-23-1

2022年10月1日より、展示ギャラリーは以下の住所です。

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1F

HP : <https://www.seikado.or.jp/>

(7) すみだ北斎美術館

住所：〒130-0014 東京都墨田区亀沢 2-7-2

HP : <https://hokusai-museum.jp/>

(8) アサヒビール大山崎山荘美術館

住所：〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原 5-3

HP : <https://www.asahibeer-oyamazaki.com/>

(9) 豊田市美術館

住所：〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町 8-5-1

HP：<https://www.museum.toyota.aichi.jp/>

(10) SOMPO美術館

住所：〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

HP：<https://www.sompo-museum.org/>

<84円シート>

(3) 東京藝術大学

住所：〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

HP：<https://www.geidai.ac.jp/>

(8) 愛知県美術館

住所：〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2

HP：<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

(9) 国立西洋美術館

住所：〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7

HP：<https://www.nmwa.go.jp/>

※ (1)、(2)、(4)～(7) および (10) については、63円シートと同じです。

4 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

(注1) 一部の郵便局においては、お取り寄せとなる場合があります。

(注2) 「郵便局のネットショップ」への掲載は、2022年8月3日(水)の予定です。

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-23-28-86 (フリーダイヤル)

携帯電話から 0570-046-666 (有料)

<受付時間 平日 8:00～21:00

土・日・休日 9:00～21:00>